

新球技場計画撤回を

再整備検討の 緑の保全訴える 三ツ沢公園

再整備に向けた検討が進む三ツ沢公園(横浜市神奈川区)について、新球技場建設の撤回を求める署名活動を行ってきた市民団体が26日、市役所で会見した。同公園は子どもたちをはじめ地域住民が大切にしてきた「宝物のような場所」とし、「住民の声を無視しないでほしい」と訴えた。

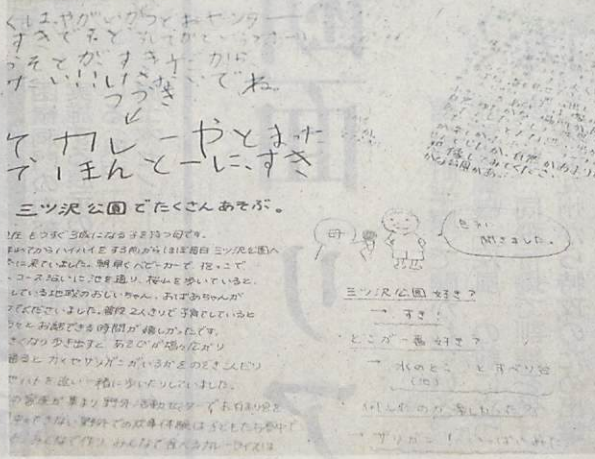
市民団体が会見

会見したのは、公園周辺「公園の自然と緑を守る会」の住民らでつくる「三ツ沢」8月から公園付近の住民ら「ニッパツ三ツ沢球技場」

に署名活動を始め、今月11日、市長宛てに4241筆を提出した。

再整備構想では既存の三ツ沢公園を削り、

(加地 紗弥香)



署名や子どもたちからの手紙を市の担当者へ手渡す井上共同代表(左)と、三ツ沢公園の自然と緑を守る会(右)のメンバー。11日、横浜市役所で市

とは別に新球技場の建設が打ち出され、炊事や宿泊体験ができる青少年野外活動センター、桜の名所で知られる「桜山」などのエリアに配置する案が示されている。同会は球技場新設に伴い、多くの緑が失われることや長年親しんできた空間の変容への危機感から発足。署名活動やチラシ配布を行ってきた。

共同代表の島崎文彦さん(62)は丘陵地かつ緑豊かな公園に二つ目の球技場を造る必然性が示されないことを指摘。「他の場所を検討した記録は見当たらず、三ツ沢公園ありきで考えら

れている。市長陳情への回答でも納得のいく答えはなかった」と批判した。近隣住民でさえも球技場の新設計画はほとんど知らないといい、住民説明会と公開討論会の開催を要望した。

同じく共同代表の井上明美さん(71)は住宅密集地にある同公園が、住民にとっ

ていかに大切な空間だったかを再認識したと振り返る。署名とともに市に提出した住民らの手紙も紹介。子どもたちからは「学校では木を守ることが大切と教えるのになぜこんなことをするのか」「(野外活動セ

ンターが)すきだから、ゼったいけさないで」といった声が寄せられ、2歳の息子と毎日散歩に来るといふ母親からは「子どもたちにとって貴重な体験の場、人と人がつながる地域の大切な場所をなくさないでください」といった手紙を託されたという。

井上さんは「丘陵地を削り、巨大な人工物を建てたら、そこは公園と呼べるのか。子どもたちに緑豊かな公園を残していきたい」と訴えた。オンラインも含めて署名は継続しており、来年1月末に再度集約する。